

# 救助小隊訓練(ブリーチング)を実施しました

- ・ 訓練実施日 (平成 28 年 7 月 12 日・14 日・19 日)
- ・ 訓練実施隊 (中消防署 / 第 1 班・第 2 班・第 3 班 / 各救助小隊)
- ・ 訓練実施場所 (旧南消防署)

「ブリーチング」とは、震災現場などで、建物の倒壊により生き埋めになった人を探し出し、救出するための開口部を作成する手法です。助けを求める人が近くにいる場合に、やさしく開口部を設定する手法でコンクリート片等の落下物を最小限にする「クリーンブリーチング」、また対照的に開口部の近くに人がいない場合に、できる限り早く開口部を設定する「ダーティーブリーチング」の 2 種類があります。



生き埋めの人を探すための  
穴(サーチングホール)を設定



簡易画像探査機を使用しサーチングホール  
から床下の要救助者を検索



一辺 90cm の三角形の開口部を作成します。

この大きさは担架が通過する最低限の大きさであり、破壊する面積を最小限に抑えて、すばやく救出口を設定するためです。

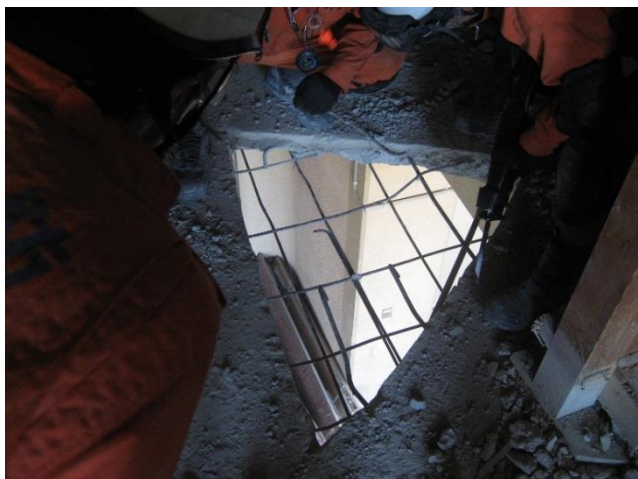
まず、カッターで三角形の切れ込みを入れます。カッティングの際、粉塵が舞うため水をまき抑えると伴に、送排風機で粉塵を外に排出します。



サーチングホールからの検索で要救助者が救出口設置箇所の付近に居なかったため、「ダーティーブリーチング」を実施しました。



中心の三角形を残し「ハツリ」と「ハンマー」でコンクリートを叩き割ります。



コンクリート内の配筋(鉄筋)を切断した後、毛布で切口を養生し隊員が進入します。



要救助者を担架に縛着し、救出口から救出した後、隊員を脱出させブリーチング訓練を終了しました。